

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝原小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・さいたま市学習状況調査において、多くの学年で向上が見られた。しかし、上記の分析のように特に課題の見られる問題があるので、年度内に復習をして理解を深める。
思考・判断・表現	・さいたま市学習状況調査において、多くの学年で向上が見られた。しかし、上記の分析のように特に課題の見られる問題があるので、年度内に復習をして理解を深める。 ・次年度も引き続き算数資料室を整備し、教材教具を有効に活用できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	・さいたま市学習状況調査においては多くの学年で向上が見られた。算数科の授業の仕方について、学校課題研修を通して学校全体で共通理解し、授業を行うことでより一層の向上を目指していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査及びR5年度市学習状況調査における算数の「知識・技能」の正答率差(全国平均正答率と学校平均正答率の差)を、1pt向上させる。	⇒ 算数科の授業の仕方について、学校全体で共通理解し、授業を行う。(ノート指導の仕方、TTの授業でのT1とT2の役割分担等) ・「ドリルパーク」等を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査及びR5年度市学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」の正答率差(全国平均正答率と学校平均正答率の差)を、1pt向上させる。	⇒ 算数科の授業の仕方について、学校全体で共通理解し、授業を行う。(板書の仕方、伝え合いの仕方等) ・算数資料室を整備し、教材教具を有効に活用できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が問題を見いだしたりして、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3> (4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査における算数の「知識・技能」の正答率差(市平均正答率と学校平均正答率の差)は、3学年で以前の正答率差と比べて2pt向上した。全国学力・学習状況調査における算数の「知識・技能」の正答率差は、(全国平均正答率と学校平均正答率の差)変化がなかった。	
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」の正答率差(市平均正答率と学校平均正答率の差)は、3学年で以前の正答率差と比べて2pt向上した。全国学力・学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」の正答率差は、(全国平均正答率と学校平均正答率の差)1pt低下した。	
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査における「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対して、81%の児童が肯定的な回答をした。さいたま市学習状況調査における「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、高学年は肯定的な回答をした児童の割合が市の割合を上回った。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語:特に(1)言葉の特徴や使い方に関する事項で課題が見られた。漢字は比較的定着しているため、敬語の使い方を重点的に指導する。 算数:二次元の表から読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ問題に課題が見られた。各学年でデータの活用の単元で丁寧に指導する。
思考・判断・表現	国語:特に話すこと・聞くことに関する問題に課題が見られた。約6割の児童が解答時間不足だったことも課題である。日常的に読書に親しみ、情報をよりよく読み取ることができるようにする。 算数:比例関係を用いて知りたい数量の大きさを求める問題に課題が見られた。問題文から、基準量や比較量を正確に捉えられるよう、繰り返し指導する。
主体的に学習に取り組む態度	国語:「国語の勉強は好きですか」、「国語の勉強は大切だと思いますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を大きく上回っている。意欲を理解度につなげていきたい。 算数:「算数の勉強は好きですか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を大きく下回っている。できる、わかる楽しさをなるべく多く味わわせ、意欲につなげていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、特に主語と述語の関係に課題が見られた。 算数では、直角についての理解、立方体の構成についての理解に課題が見られた。	小4	国語では、本校の平均正答率が市の平均正答率を大きく下回った問題はなかった。 算数では、3位数÷1位数、正三角形について、折れ線グラフの読み取りに課題が見られた。
小5	国語では、主語と述語の関係の理解に課題が見られた。 算数では、小数・分数の計算、時速と分速の関係、0を含む測定値の平均の理解に課題が見られた。 社会では、八方位の理解に課題が見られた。 理科では、電流のはたらきの理解に課題が見られた。	小6	国語では、本校の平均正答率が市の平均正答率を大きく下回った問題はなかった。 算数では、除法の意味、比例の活用に課題が見られた。 社会では、鎌倉幕府と御家人の関係の理解に課題が見られた。 理科では、地層の理解に課題が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし